



人権集会～相手のこと新発見・再発見～

「みんなのことを少しでも知ることができて楽しかったです。」

人権集会の中で行われた、全員遊び「なんでもバスケット」(フルーツバスケットという椅子取りゲームでお題は何でもいい)を楽しんだ後に聞いた子どもたちの感想の言葉です。

その人のことを知ることは、相手理解・他者理解につながり、やがて共感力にもつながります。相手のことを「新発見・再発見」することができたあたたかい人権集会ができました。

子どもたちには、「子どもの権利条約」(日本ユニセフ協会抄訳版)について、中でも第12条「意見を表す権利」について少し詳しく紹介しました。

「子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。」

というものです。授業中はもちろん、生活の中で子どもたちは自分の意見を表明してよいのです。この当たり前とも思える権利が守られるためには何が必要でしょうか。それは、周りの人たちの理解です。例えば、「分からない」ことを子どもが堂々と発言してみましょう。それに対して、周りの人が「え、こんなのも分からないの?」と反応したらどうなるでしょう。次からは「分からない」と言えずに、あきらめたり逃げ出したりふざけたりしてしまうかもしれません。「子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません」というのはそういうことなのです。

はっきり口に出しては言えないけど、もじもじしたり、落ち込んだり…そのような声にならない声をもしっかりと聞き取られる必要がある権利なのです。我々大人こそ、このことを自覚して子どもの権利を守っていかなければいけません。

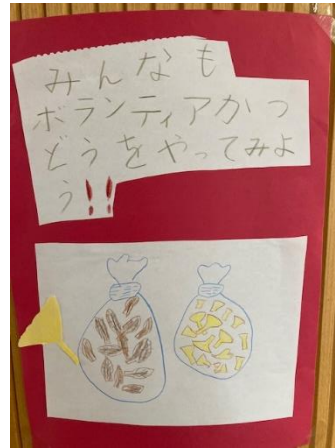
そのためにも、お互いのことを知る・新発見・再発見するということは、すごく価値があることなのです。椅子取りゲームで困っている人を見つけ、「ここ空いてるよ!」と教えようとする子どもたち。ゲームをみんなで楽しむことができるというのは、人権感覚が育ってきているからこそだと改めて感じます。



門松準備～ご協力に感謝します～

先週日曜日、門松に使う竹切りがありました。

日曜日にもかかわらず、ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。用務員の森さん、峯さんの手もお借りして、準備は順調に進んでおります。



大草塾にも負けないくらい、本校児童にもボランティア精神が育ってきています。落ち葉拾いのことをお伝えした次の日、ボランティアを呼び掛けるようなポスターを書いてくる児童がいました。自分の時間を誰かのために使うことの尊さを、地域の人たちの活躍を手本としながら成長しているのです。

以前からお知らせしていた「善行児童表彰」の冊子が届きました！
(今年の写真では間に合わず、コロナ前の写真です。)



令和5年度 善行児童生徒の表彰



令和5年10月28日
長崎県教育会

◆諫早市立大草小学校 全校児童

平成15年に太鼓を購入して始まった「大草太鼓」は、地域の伝統芸能として定着している。神社の奉納や地域の行事で演奏し、多くの方々の喝采を浴びるなど、地域を元気にしている。平成16年に開催された諫早市1市5町合併記念「こども郷土芸能まつり」でも披露し、会場を盛り上げた。

卒業生を中心に「大草太鼓 大人版」の構想も持ち上がっており、更なる地域貢献も期待される。



【長崎県教育会発行「令和5年度善行児童生徒の表彰」より】